



特集

2017年度 学生表彰 & 体育会優秀団体・選手表彰

Topics

青山学院大学次世代Well-beingのシンポジウムを開催
本学と鳥取県が包括連携協定を締結

AGU Lecture

国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科「多文化社会の諸相」

国際政治経済学部 抱井ゼミ

特集

2017年度 学生表彰

※学年は2017年度のものです。

2017年度に学問分野において活躍した学生の受賞者が発表されました。

受賞者はいずれも多様な分野において優秀な結果を残したことが評価され、受賞につながりました。

受賞者を代表し、松尾万葉さん、高橋奈未さん、小八木裕貴さん、宮田翔馬さんに受賞の感想や今後の抱負を聞きました。

社会的課題を起点としたビジネスモデルを構築し、社会に還元したい



● Youth Global Participation and Humanitarianism Seminar
日本代表として参加

● TOMODACHI MetLife Women's Leadership Program
プログラム参加

松尾 万葉さん
教育人間科学部 心理学科3年
東京・私立神田女学園高等学校出身

一般社団法人日本学生会議所の組織運営に携わり、その幅広い活動が認められ、2016年10月に開催された台湾国際会議の日本代表として選出。次世代女性リーダーの育成を目的とするアメリカのプログラムにも参加するなど、グローバルな活躍が評価されました。

台湾政府主催セミナー(台湾政府教育部青年發展署が主催する国際会議)



台湾政府教育部青年發展署署長 羅清水氏(中央)と

父が海外で働いていた話を聞いて育ち、世界に憧れがありました。大学生になり一般社団法人日本学生会議所を知り、まずは「日本の中の外国」である駐日大使館

のイベント等に参加すれば、その一端を垣間見ることができるのではないかと考えました。そうして始めた活動が、学生表彰のような名誉ある賞をいただくまでに至り、大変驚いています。推薦して下さった教授、日々私を支えてくださる方々、これまで携わった関係者の方々に感謝を申し上げます。

台湾国際会議では、国ごとに与えられたトピックについて1時間のプレゼンテーション(プレゼン)を行うほか、国の伝統文化を

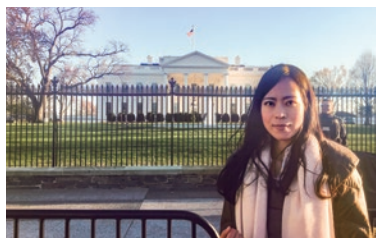
紹介するブースの設置、パーティーでのパフォーマンスなどが予定されていたので、メンバーとプレゼンについての議論を重ねつつ、学業の合間に準備を進めました。日本にあまり興味がない参加者もいる中で、いかにスムーズなコミュニケーションを行うかが、会議を成立させるための重要な前提条件であることを痛感しました。母語が英語ではない学生も多く、共通認識がずれてしまい議論が混沌とする場面が多々あったので、誰にでも分かりやすい平易な英語でそれぞれの主張を整理するよう努めました。その甲斐あって最終日を迎える頃には、披露したソーラン節と一緒に踊ったり、お互いに別れを惜しむほどの関係に。他者と協働する難しさを学ぶとともに、互いに耳を傾け、多様な価値観を尊重し合うことの重要性を肌で感じました。これまで海外にばかり目を向けていたのですが、初めて「日本」について真剣に考え、自分が日本人であることを意識した良い機会となりました。

TOMODACHIプログラム(次世代女性リーダー育成を目的としたプログラム)

進路選択に迷っていた時期にアメリカ大使館のウェブサイトでこのプログラムの募集を見つけ、今後の指針を得られると思い応募。2016年9月～2017年6月までの約10カ月間の活動の中でも、アメリカ研修は朝から夜までびっしりとスケジュールが詰まっていて、最終日にはメットライフ生命保険株式会社のニューヨーク本社で役員の方々に前に行く「あなたの世代は強いリーダーを育てるために何をするべきか」というテーマでのチームプレゼンもありました。ホテルでピザを夜食に深夜まで議論を重ねたことは、良い思い出です。研修では現地日本大使館の外交官や、国防総省、国務省などのアメリカ政府機関関係者、政治家や財界人など、普段お会いできないような方々とお話しする機会があり、多くのモデルケースに触れ、さらに視野が広がりました。共に参加したメンバーは多様な地域、学部出身

で、将来について考え、語り合う中でとても刺激を受けました。今後それぞれの道を歩み、年齢を重ねてから皆と会うのが今から楽しみです。ここで得た人とのつながりはとても大きな財産となりました。

私はこれらの経験から、経済的な利益を追求する「経済的価値」と、社会的な貢献を追求する「社会的価値」を両立できる活動が、社会的課題の継続的な解決へとつながるのではないかと考えるようになりました。そのために、現在自分に不足しているスキルや専門性について、より学びを深めていきたいと思っています。



ホワイトハウス前にて

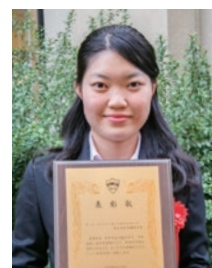
等身大の言葉で、ありのままの青学の魅力を伝える

キャンパスツアーガイドボランティア(CTGV)

年間1万人を超える来校者に、青山・相模原の両キャンパスでキャンパスツアーを行っています。本学の魅力や歴史、教育の特長を、学生の立場から“等身大の言葉でありのままに”伝えてきたこと、その長年にわたる活動が評価されました。

高橋 奈未さん
(青山支部代表)

文学部 英米文学科2年
茨城・私立江戸川学園取手高等学校出身



青山支部は現在60名ほどのメンバーが在籍し、イベント時はもちろん、中学や高校からの依頼も受けてキャンパスツアーを行っています。2017年度のオープンキャンパスでは毎日10分おきに2本ずつのツアーを、1日に60本、3日で180本行いました。図書館やガウチャー・メモリアル・ホール、いつも使用している教室などをルートに設定し、施設の説明とともに自分たちの学生生活の話を交えつつ案内しました。青山キャンパスは渋谷駅・表参道駅を最寄りとする便利な都心にありながら、敷地が広くて緑も多く、落ち着いた雰囲気を含み備えています。そうした魅力を余すことなく参加者に伝えたい、皆さんに満足して帰っていただきたいとの思いか

小八木 裕貴さん
(相模原支部代表)

理工学部 機械創造工学科2年
東京都立小山台高等学校出身



相模原支部の活動内容は基本的に青山支部と同じですが、相模原キャンパス見学会、Aoyama Rikei Girls フェアといった相模原キャンパス独自のイベントでも活動しており、メンバーは約40名です。相模原キャンパスの魅力は、なんといっても国内外トップレベルの研究設備が整う恵まれた環境です。また、図書館やカフェテリア、学生ラウンジなどの施設はとても広くて使いやすく、開放感があります。2017年度オープンキャンパスのツアーでは、チャペルや図書館などの施設を案内してその素晴らしさを直接見ていただくとともに、現役学生が語る学生生活の話を通して大学の魅力を感じていただけるよう、青山・相模原両支部が協力し活動しました。充実した施設や自分の学生生活について、どう話せば一人でも多くの参加者に伝わるかを考え試行錯誤しているうちに、自分の考えを相手に的確に伝える技術が身に付いたように思います。



オープンキャンパスでのツアーの風景(青山キャンパス)

ら、悪天候の日は室内での説明を増やしたり、同じ場所で複数のツアーが重ならないよう滞在時間を調整するなど、工夫しています。CTGVの活動を通じて、誰かの指示を待つのではなく、自分で考えてその時の最善を尽くすという臨機応変な姿勢が身に付きました。

活動の中で特に印象に残っている出来事は、最後にご協力いただくアンケート用紙に、「ありがとうございました」という言葉とともに、私の似顔絵が描いてあったことです。ツアーを楽しんでいただけたのだと、とても嬉しく思いました。その似顔絵の画像は携帯電話に保存しています。

今回学生表彰を受賞できたのは、これまでの先輩方の活躍と、職員の方のご協力のおかげだと思います。嬉しさとともに感謝の気持ちでいっぱいです。青山支部は10周年を迎えましたが、青山学院大学が存在し続ける限りCTGVの活動も続きます。これからも一人でも多くの方に本学の魅力を伝えていけるよう、メンバーで協力して、一生懸命活動してまいります。

相模原祭では受験生への個別相談を行ったのですが、相談を受けた受験生の保護者の方が私のことを覚えてくださり、翌年のイベントで「おかげさまで子どもが青山学院大学に入学することになりました。ありがとうございます」とお礼を言われました。少しでも役に立つことができたのかなと、とても嬉しかったです。

今回の学生表彰の受賞は、これまで先輩方がCTGVの歴史をつくってくださったからこそその結果だと思うので、私たちも後輩たちにこの歴史をつないでいき



タブレット端末を用いた個別相談対応

ます。これからも多くの方々に本学の魅力を伝えられるよう、精力的に活動していきたいと思っています。前年度の反省を踏まえつつ、キャンパスをより良く知ってもらえるような工夫や新たな取り組みにも積極的にチャレンジしようと考えています。

光線力学療法に新たな“光”をもたらす

● 第38回日本光医学・光生物学会奨励賞(生物・化学領域)受賞

宮田 翔馬さん 理工学研究科 理工学専攻化学コース博士前期課程2年
東京都立小金井北高等学校出身

年次学術大会の演題の中から、医学領域、生物・化学領域より各々一つずつの演題が投票により選出・表彰されます。准教授までの演題が発表者の対象となる中、2016年7月、博士前期課程1年で受賞したことが評価されました。



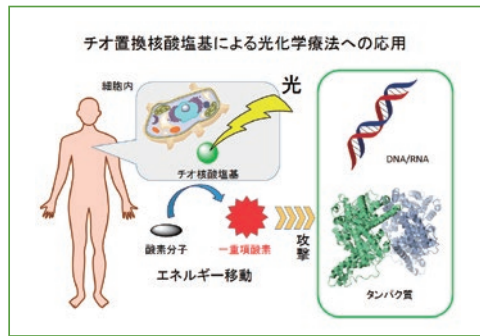
学会発表者は大学の准教授や助教の方がほとんどで、私はきちんと学んできたことを元気に発表する、それだけを心がけました。ですから奨励賞受賞はとにかく驚きでした。このような名誉ある賞をいただき、その上学生表彰まで受賞できたのは、日頃から熱心にご指導くださった鈴木正教授のお力添えのおかげです。

私はDNAの構成要素である核酸塩基※¹に硫黄原子を修飾した「チオ置換核酸塩基」を新規に合成し、その励起状態※²について研究しました。チオ置換核酸塩基に光を当てると細胞に対して有毒な活性酸素をたくさん放出することが分かったのですが、これは光でがんを治療する光線力学療法の薬剤となり得る新たな可能性を示しています。光を用いた治療の大きな特徴は「低侵襲(身体への負担が少ないこと)」であり、体力が低下している患者の治療法の選択肢が広がります。光医学は今後、患者のQOL(Quality of Life:生活の質)を優先することができる

有用な治療ツールになると確信しています。

研究室では、鈴木教授はいつも「自分の研究は、自分が世界で一番詳しくなりなさい」とおっしゃいます。研究成果を出すことはもちろん大切ですが、それ以前にまずは主体性を持って研究に取り組み、自分自身で研究の方向性の舵取りをすることが一人の科学者として大切だと指導していただきました。自ら疑問を持って解決に取り組む「研究への興味」こそが、鈴木教授からいただいた一番の教えであったと感じています。

卒業後は研究テーマとは異なる分野の仕事に就くことになりましたが、本学で学んだことや、研究室で身に付けた「主体性を持って研究に取り組む姿勢」を糧に精一杯努力し、青山学院大学の卒業生として胸を張って社会に出たいと思います。



光でチオ核酸塩基は活性酸素を生み目標を攻撃

- ※1 DNAに含まれる核酸塩基は4種類あります。グアニン、アデニン、チミン、シトシンと呼ばれる物質で、この核酸塩基3つがセットで1つのアミノ酸に対応しています。タンパク質はアミノ酸がつながったもの(ポリマー)なので、DNA中の遺伝情報はタンパク質の設計図とみなすことができます。
- ※2 分子が光を吸収するとエネルギーが高い状態になります。これを励起状態(電子励起状態)といいます。励起状態はエネルギーが高く不安定な状態なので、分子は光を放出して元の安定な状態に戻ったり(発光)、化学反応を引き起こしたりします。

研究室指導教員・鈴木正教授より

遺伝子を構成している核酸塩基は4種類しかありません。この核酸塩基は紫外線を吸収して活性化した状態(エネルギーの高い励起状態)となりますが、すぐに元の安定な状態(基底状態)に戻ります。なぜこんなにも安定しているのか、多くの研究者が研究を続けています。私たちの研究室では、核酸塩基を少し修飾した分子を合成して、励起状態について研究を行っています。宮田さんは硫黄原子を含んだ核酸塩基(チオ置換核酸塩基)という風変わりな分子をターゲットとして、緻密な実験とデータ解析からその知られざる特徴を明らかにしました。新規チオ核酸塩基誘導体の合成からスタートし、その励起状態を探るという困難なテーマに積極的に取り組んだこと、目標に向かってひた向きに努力を積み重ねることのできる真面目さが、受賞につながったでしょう。今後のさらなる活躍を期待しています。



左から宮田さん、三木義一学長、鈴木教授

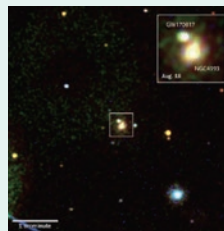
青学がNature Index 2018 Japanで第5位！

国際的な科学誌『Nature』の特別企画冊子「Nature Index 2018 Japan」(2018年3月発行)のランキングで、本学が第5位に入りました。このランキングは、2012～2017年における高品質な科学論文のうちハイレベルな学術誌に掲載された割合の高い大学を表しています。大阪大学や東京工業大学等をしのいでランキングされたもので、本学の研究内容を高品質な科学雑誌に極めて効率よく発表していることが示されました。ここでは本学のハイレベルな研究の一部を紹介します。

重力波天文学の幕開け

理工学部 物理・数理学科 坂本 貴紀准教授

2017年8月17日に検出された中性子星同士の合体によって発生した重力波に伴った光を地上、そして宇宙からの観測により発見し、ガンマ線バーストの起源に迫ることができました。次の観測は2018年の終わり頃の開始を予定しております。今後も私たちの予想を良い意味で裏切る新発見を重力波天文学はもたらしてくれることでしょう。



スウィフト衛星の重力波イベントGW170817からの紫外線放射を検出(出典: NASA/Swift)

TOPICS

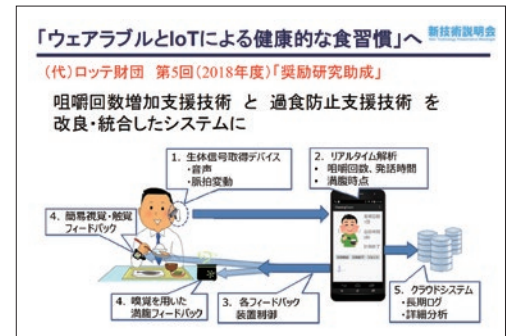
大学初の新技術説明会を単独開催

2018年2月8日(木)に、JST(国立研究開発法人科学技術振興機構)東京本部別館にて、新技術説明会を単独開催しました。新技術説明会とは、大学等が研究成果を実用化(技術移転)することを目的として、新技術や産学連携に興味のある企業関係者に向けて、研究者自らが直接プレゼンテーションする説明会です。今回は理工学部の長秀雄教授、野澤昭雄教授、洲真悟准教授、LOPEZ, Guillaume准教授の4名の教員が企業関係者に向けて発表しました。当日は、190名という多数の参加者にお越しいただき、急遽、補助席が必要になるほどの大盛況となりました。喜ばしいことに、文系・理系にかかわらず多数の本学卒業生にもご参加いただき、説明会を機に、技術移転活動についてご支援いただいております。また、開催前後に新聞紙面に記事が掲載され、現在も多数の企業から共同研究のオファーをいただいております。

電子レンジのターンテーブルの回転が不要になり、料金所のETCシ

ステムが正確に作動するのは本学の技術移転による成果であり、社会に貢献する技術成果を上げています。今後も、引き続き社会に役立つ技術創出に向けて研究活動を推進していきます。なお、今回は2018年11月22日(木)午後に新技術説明会をJST東京本部別館で開催予定です。詳細は本学ウェブサイトに掲載予定です。多数のご参加をお待ちしています。

LOPEZ, Guillaume准教授の発表内容



青山学院大学次世代Well-beingのシンポジウムを開催

2018年3月5日(月)「ヒトとヒトに係る環境の計測とモデル化技術～IoTが支える次世代 Healtech & Sportech～」と題したシンポジウムを、青山学院大学次世代Well-beingの主催で、青山キャンパス17号館 本多記念国際会議場にて開催しました。当プロジェクトは、2016年より IoT(Internet of Things)の概念を超えて、幅広くセンサや他の情報源から得られるデータを個々人が活用していくことを

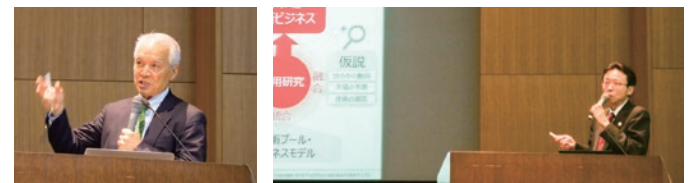
Well-being(ウェルビーイング)とは何か

身体的、精神的、社会的に健康で豊か。個々人がいきいきと生活でき、豊かな社会を目指す。



テーマに、研究およびプランニングの活動を行っています。

シンポジウムでは、慶應義塾大学客員教授でNICT(国立研究開発法人情報通信研究機構)理事長でもある徳田英幸氏より、情報を個人に提供し行動変容を促す際の課題について、株式会社富士通研



徳田英幸氏

森田俊彦氏

究所フェロー森田俊彦氏からはビジネス化する上での課題についてご講演いただきました。本学からは3学科9名の教員が、「次世代Well-beingプロジェクト—個別適合をめざした統合的人間計測・モデル化技術の構築」「技能訓練システムの開発」「健康福祉分野—健康管理・介護支援システムの構築—」「情報表示技術としてのVR/ARの課題」「個々人の状態に着目した学習」「日常生活に溶け込んだHealtech & Sportech の未来」「心臓血管系・温熱系指標に基づく感性計測」「技能学習の基礎研究」というテーマで研究発表を行いました。

特設ウェブサイト : <http://well-being.agnes.aoyama.ac.jp/>

化学の力で切り拓く光と色の世界

理工学部 化学・生命科学科 阿部 二郎教授

動画ホログラム

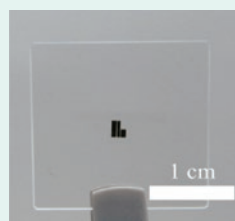


化学反応によって作成された「フォトクロミック動画」

光に応答して変色する「フォトクロミック分子」を利用して実時間で動く動画ホログラムの実現に世界で初めて成功しました。最近では、照射する光の波長や強度に応じて色調が多段階に変化する画期的なフォトクロミック分子の開発で、世界でも大きな反響がありました。今後も青学生と「世界オンリーワンの化学」を楽しみながら、世界で活躍できる人材の育成に携わっていききたいと思います。

グラフェンを用いた透明アンテナ

理工学部 電気電子工学科 黄 晋二教授 橋本 修教授



作製した透明グラフェンアンテナ

炭素原子がハチの巣状に結合したグラフェンは、電気を極めて良く通し、透明かつフレキシブルな不思議な材料です。これを用いた「透明なアンテナ」の作製に成功し、今後の実用化を目指しています。実用化すれば、身近に迫った5G技術への応用、また、ビルや自動車の窓がそのままアンテナとなり、多くのデータのやり取りが場所を選ばず可能となります。

2017年度 体育会優秀団体・選手表彰

体育会優秀団体・選手表彰では、2017年度にスポーツ分野において活躍または業績を上げた学生、団体が表彰されました。受賞者を代表し、優秀選手に選ばれた鈴木敦也さん、青木光さん、小峯祥子さんに受賞の感想や今後の抱負について聞きました。

何度も衝突しながら2人で乗り越えてきた全国大会への道のり

優秀選手

● 第62回全日本学生競技ダンス選手権大会 パソドブレの部 第3位

鈴木 敦也さん 経済学部 現代経済デザイン学科3年
東京・私立成城高等学校出身

青木 光さん 文学部 史学科3年
栃木県立さくら清修高等学校出身

大学4年間の集大成となる競技ダンス冬の全国大会において、4年生が出場者の殆どを占める中、3年生ペアで出場し、なおかつ3位に入賞したことが評価されました。2018年度の全国大会に優勝の期待がかかる2人です。



鈴木さん：冬の全国大会は4年生にとって最後の大会であり、会場は歩くのも困難なほど混みあっています。そんな状況の中、3年生で出場しただけでなく、3位に入賞できたことはとても光栄です。競技ダンスを続けるうちに、ペアで作り上げていく楽しさに夢中になり、その奥深さに魅せられ今に至ります。2人の間で意見

の食い違いが生まれることも多々ありますが、青木さんはそうし

た壁と一緒に乗り越えてくれる、信頼できる最高のパートナー。優秀選手の名に恥じないよう今後も好成績を収めたいと思いますし、主将として競技ダンス部全体を盛り上げていきたいです。

青木さん：競技ダンスの魅力は、2人で優勝を目指すこと。鈴木さんとは何度も衝突しましたが、部を引っ張るリーダーでありながら、私のことも考えて行動してくれる彼とのペアだからこそ、全国大会において3位という結果を残せたのだと思います。今回の受賞は本当にたくさんの人に支えられて得た結果で、感謝しかありません。今まで私のやりたいことを応援してくれた家族、大きな声援をくれる青学競技ダンス部、そして共に頑張ってくれた鈴木さんのために、2018年度冬の全国大会で最高の踊りを披露し、優勝を勝ち取りたいと思っています。



全国大会予選の様子

世界大会を経験し、ワールドカップ出場への思いが明確に

優秀選手

● 第28回ラクロス国際親善試合 日本代表として出場
● 第10回IWGAワールドゲームズ大会 日本代表として出場(第5位)
● 第30回関東学生ラクロスリーグ戦 1部リーグベスト12選出

小峯 祥子さん 文学部 英米文学科3年
東京・私立青山学院高等部出身

ワールドゲームズをはじめとする複数の国際試合に日本代表として出場。また関東学生ラクロスリーグ1部リーグベスト12にも選ばれるなど、日本国内はもちろん世界を相手に戦う活躍ぶりが評価されました。



第10回IWGAワールドゲームズ大会、対戦後カナダ人選手と

このような大きな賞をいただくのは初めてで大変光栄です。入部当初はここまで夢中になるとは思っていませんでしたが、今ではラクロスは私のすべてです。第2のオリンピックともいわれる大規模な世界大会ワールドゲームズにラクロス日本代表として参加し、選手村で過ごした1

週間は、たくさんの国の文化や個性に触れることができ、とても刺激的でした。世界2位のカナダとの対戦では、スピードやフィジカルに圧倒されて5対18で惨敗。でも試合後、カナダの選手がラクロスの技術を私たちに丁寧に教えてくださったんです。参加者は皆、国籍を問わずスポーツに真剣に取り組んでいて、そうした方々と出会えたことを嬉しく思います。

今後は、ラクロス部の一員としては「日本一」、個人としては2021年のワールドカップ日本代表となることが目標です。世界のトップレベルにはかなわない部分も多くありますが、海外選手に競り負けない恵まれた体格を強みにして、日本中の人にラクロスの魅力を伝えつつ、自分自身も成長し続けていきたいです。



第30回関東学生ラクロスリーグ戦 初戦の様子

本学と鳥取県が包括連携協定を締結

2018年3月20日(火)、青山キャンパス総合研究所ビル(大学14号館)にて、本学と鳥取県は包括連携協定を締結し、調印式を行いました。三木義一学長と平井伸治鳥取県知事が協定書に署名し、固く握手を交わしました。

主な協定内容は、「鳥取県における教育研究活動の取り組み推進に関すること」「住民や活動組織等と連携した活動や、教育・文化の振興など地域振興に関すること」「教育研究活動を通じた人材育成に関すること」「鳥取県での円滑な教育研究活動と成果の活用に向けた取り組み

支援に関すること」「学生の就職支援に関すること」などです。

本協定の締結により本学の教育、研究および社会貢献活動の発展と、鳥取県の豊かな自然環境や景観、地域づくりの取り組み、文化活動などを生かした個性ある地域社会との形成と発展に寄与することを目的として、相互に連携・協力していきます。



平井伸治鳥取県知事(右)と三木義一学長(左)

災害ドローンの未来を語る。

“AOYAMA VISION Crisis Mapping Conference”を開催

自然災害や政治的暴動などが起きた際に、現地の被災状況を迅速に地図上に反映し、人命救助や支援活動をサポートするクライシスマッピング活動。特に最新鋭の無人機を活用した「災害ドローン救援隊DRONE BIRD」の社会実装に取り組み、AOYAMA VISIONプロジェクトとして1年間の活動報告と海外ゲストを交えた国際カンファレンスAOYAMA VISION Crisis Mapping Conferenceを実施しました。最先端の防災に関わる国内外約100名の方々にご参加いただき、午

前中は自治体との協働、午後は海外組織との連携、そして夕方はクライシスマッピング活動と呼応する最先端の防災活動に取り組んでいる方々に情報共有していただき、青山学院という場所で学生たちと自治体、外部組織とが協働して何ができるのか、そんな未来の防災の在り方を議論する熱気あるカンファレンスとなりました。

2018年2月25日(日) 青山学院アスタジオ 地下ホールにて
(地球社会共生学部教授 古橋 大地 記)



登壇者との集合写真



自治体セッションでの風景

社会人向けプログラム「青山アカデメイア」を開設

本学は、いつまでも学び続ける社会人のために、独自の社会人教育プログラム「青山アカデメイア」を2018年4月に青山キャンパスで開設しました。

今年度は英語やフランス語の実践的な語学講座、地域政策人材開発講座などをスタートしました。専門性の向上を目指す現役層から、経験に知識の磨きをかけたいシニア層まで、幅広い受講生の学びのニーズを満たす各種講座を展開していきます。

講座内容、申し込み方法等詳細は以下本学ウェブサイトをご覧ください。

URL <https://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/akademeia/>



2018年度 開講講座名	講座内容
コミュニケーションブリッシュ(春季・秋季)	実践的な英語コミュニケーションスキルを初級・中級・上級クラスに分かれて学びます。
The Wall Street Journal®で学ぶビジネス英語	米国の経済新聞を教材に、仕事(特に金融業界)で使えるビジネス英語を学びます。
地方自治戦略的政策形成	地方行政に求められる政策家の企画力を養い、提案・プレゼンテーションスキルを学びます。
通訳者をめざす人のための上級フランス語※	リスニングとディスカールの分析力、スピーディーで的確な口頭表現力を訓練します。
フランス語通訳者養成コース(基礎科・本科)※	入門コースから、プロフェッショナルコースまで。本格的な会議通訳者のレベルを目指します。
フランス語翻訳コース(基礎科・本科)※	翻訳技術の基礎を身に付け、さらに日仏・仏日双方向の本格的な翻訳力の養成を目指します。

※公益財団法人フランス語教育振興協会(APEF)との共催講座



AGU Lecture o88



多文化社会の諸相

抱井 尚子

国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科教授

本ゼミナール(ゼミ)では「多文化社会の諸相」というテーマのもと、人の心と行為を文化的・制度的・歴史的文脈と個人の心理プロセスの相互作用から捉える社会文化的アプローチを手がかりに、多文化に暮らす人々の経験を探っていきます。研究を通して、国籍や民族などの差異による多様性を、「マイナス」ではなく「プラス」の力に転じる社会づくりに寄与する知識構築を目指します。また、一般社団法人社会調査協会が認定を行う「社会調査士」資格の取得を目指すゼミでもあるので、学生は社会科学の研究手法も並行して学びます。最近新たに導入した海外のデータベースを利用して、英語でも研究法に触れてもらっています。学生たちは3年次の前期に学際的な分野から多文化共生に関わる文献を講読し、さまざまな思考の枠組みや理論を学んでいきます。後期は学生自身が取り組むべき課題を決めデータ収集を行い、4年次では収集したデータを分析し、結果を卒業論文にまとめていきます。英語力の高い学生も多く、これまでの研究テーマには英字新聞を研究対象として分析した「シャルリー・エブド襲撃事件の報道から考える表現の自由の在り方」という論文もありました。そのほか「LGBTのカミングアウトとその受容」、「国際結婚夫婦の『理想の国際児

像』と国際児自身が抱く『自分像』の考察」など、研究テーマも多彩です。

本ゼミならではの特色は3つあります。まず教員と学生、4年生と3年生の関係がフラットであること。これは、階層関係が存在する中では活発な議論はできないと考えるからです。また、良い議論を行うには脳にエネルギーを補給する必要があるため、ゼミの間は甘いものを適度に口にすることを許可しています。そして3つ目は、数量的データを用いる量的研究と、記述データを用いる質的研究を併用する混合研究法です。私自身、アメリカ留学中にこの研究方法に初めて出会い、以来調査経験や論文査読経験を積んできました。そして、ここ数年この研究方法を学生たちにも紹介しています。ゼミの卒業生たちはJICAの職員や映画翻訳会社の翻訳者、新聞社の記者、外資系ホテルの海外営業シニアマネジャー、企業内リサーチャーなど、多様に活躍しています。学生たちには物事を多面的な視座から捉える習慣を身に付け、常識とされていることを疑う、批判的な思考を持ってもらいたいと思います。また、どんなに素晴らしいアイデアがあっても相手に届かなければ意味がありません。「何を言うか」と同じくらい、またはそれ以上に「どのように言うか」を心がけてほしいと考えています。



抱井ゼミ学生

大勝 杏奈さん
国際政治経済学部
国際コミュニケーション学科
4年
神奈川県立
横浜緑ヶ丘高等学校出身

社会調査士の資格取得を目指すゼミで専門的な学びがしたいと思い、抱井ゼミを選びました。抱井先生は明るい方で、「その質問いいね」などと褒めていただけたときなどはすごく嬉しいです。ゼミはオンとオフがはっきりしています。討論するときには先輩、後輩、そして先生にも自由に意見を言いますが、それ以外はみんなとても仲が良く、和気あいあいとした雰囲気です。親しいからこそ熱い議論を交わし、気が付けば休憩なしで3時間経っていたということも珍しくありません。私の研究内容はメディアコミュニケーションで、視覚障害者におけるラジオの意味付けについてです。ゼミでいろいろな人の意見を聞くことは、多角的な視点で物事を捉える勉強にもなり、新聞や本の読み方も変わりました。最大の収穫は、論理的思考や物事を批判的に見る思考を身に付けられたことで、現在の研究でもそれらの思考力が役立っています。卒業後、社会に出て何か問題に直面しても、ミクロな視点ではなく俯瞰で見て、原因が特定されていても「本当にそうなのか」という思考性を大事にしたいです。物事にコツコツと、また苦手なことにも取り組める人なら、ゼミの一員としてきっと活躍できるでしょう。とてもおすすめるゼミです。

Information

2018年度 大学執行部、学部長・研究科長紹介



学長
三木 義一
■専門分野：税法
■任 期：2015年12月～2019年12月



副学長(学務担当)
阪本 浩
■専門分野：古代ローマ史
■任 期：2017年12月～2019年12月



副学長(学生担当)
外岡 尚美
■専門分野：アメリカ演劇
■任 期：2017年12月～2019年12月



副学長(青山キャンパス総務・財務担当)
田中 正郎
■専門分野：流通マーケティング
■任 期：2017年12月～2019年12月



副学長(相模原キャンパス総務・財務担当)
橋本 修
■専門分野：生体・環境電磁工学
■任 期：2017年12月～2019年12月



副学長(国際・広報担当)
押村 高
■専門分野：政治学、国際関係論
■任 期：2017年12月～2019年12月



文学部長・文学研究科長
伊達 直之
■専門分野：英語詩及びイギリス文学・文化研究
■任 期：2018年4月～2020年3月



教育人間科学部長・教育人間科学研究科長
小田 光宏
■専門分野：図書館情報学
■任 期：2017年4月～2019年3月



経済学部長・経済学研究科長
中村 まづる
■専門分野：経済政策
■任 期：2018年4月～2020年3月



法学部長・法学研究科長
大石 泰彦
■専門分野：メディア法、メディア倫理
■任 期：2018年4月～2020年3月



経営学部長・経営学研究科長
三村 優美子
■専門分野：マーケティング、流通
■任 期：2018年4月～2020年3月



国際政治経済学部長・国際政治経済学研究科長
内田 達也
■専門分野：応用ミクロ経済学
■任 期：2018年4月～2020年3月



総合文化政策学部長・総合文化政策学研究科長
茂 牧人
■専門分野：近・現代ドイツ哲学、宗教哲学
■任 期：2018年4月～2020年3月



理工学部長・理工学研究科長
長 秀雄
■専門分野：レーザー超音波、非破壊検査工学
■任 期：2018年4月～2020年3月



社会情報学部長・社会情報学研究科長
宮川 裕之
■専門分野：情報システム学
■任 期：2018年4月～2020年3月



地球社会共生学部長
平澤 典男
■専門分野：公共経済学
■任 期：2017年4月～2019年3月



国際マネジメント研究科長
岩井 千明
■専門分野：ビジネスゲーミングシミュレーション、データベースマーケティング
■任 期：2017年4月～2019年3月



法務研究科長
藪口 康夫
■専門分野：民事訴訟法
■任 期：2018年4月～2020年3月



会計プロフェッション研究科長
小西 範幸
■専門分野：国際会計論
■任 期：2017年4月～2019年3月

2018年度 保証人の方対象説明会について

キャンパス見学会	新入生の保証人の方を対象としてキャンパス見学会を実施します。 青山キャンパス…6月16日(土)午後(相模原キャンパスは5月26日(土)に実施しました)
学業説明会・就職説明会	首都圏にお住まいの保証人の方を対象に5～6月の土曜日に実施します。
ペアレンツウィークエンド(地区父母懇談会)	首都圏以外にお住まいの保証人の方を対象として、大学教職員が全国の拠点都市に伺って大学の近況をお伝えします。開催日程は表の通りです。

	地 区	開催日	開催場所	地 区	開催日	開催場所
ペアレンツウィークエンド	仙 台	6月2日(土)午後	ホテルメトロポリタン仙台	広 島	7月1日(日)午前	ホテルグランヴィア広島
	札 幌	6月3日(日)午前	ニューオータニイン札幌	新 潟	7月1日(日)午後	新潟グランドホテル
	水 戸	6月9日(土)午後	三の丸ホテル	長 野	7月7日(土)午後	ホテルメトロポリタン長野
	青 森	6月10日(日)午前	青森国際ホテル	米 子	7月8日(日)午前	ANAクラウンプラザホテル米子
	福 岡	6月16日(土)午前	ソラリア西鉄ホテル	郡 山	7月14日(土)午後	郡山ビューホテルアネックス
	鹿児島	6月17日(日)午前	城山ホテル鹿児島	名古屋	7月15日(日)午後	名鉄ニューグランドホテル
	長 崎	6月23日(土)午前	ANAクラウンプラザホテル長崎グラバービル	浜 松	7月22日(日)午後	オークラアクティホテル浜松
	高 松	6月24日(日)午前	JRホテルクレメント高松	福 井	7月29日(日)午前	ホテルフジタ福井
	大 阪	6月30日(土)午前	ホテルグランヴィア大阪	金 沢	7月29日(日)午後	ANAクラウンプラザホテル金沢

対象の方に5月上旬に郵送したご案内を参照の上、[本学ウェブサイト](#)よりお申し込みください。 問い合わせ先 庶務部庶務課 TEL：03-3409-8568
実施詳細の最新情報は[本学ウェブサイト](#)でご確認ください。



2017年度 学位授与式(卒業式)

2018年3月24日(土)、青山学院記念館において学部・大学院の学位授与式が挙行され、約4,000名が門出を迎えました。梅津順一院長の式辞、三木義一学長の告辞に引き続き、坂本由喜子校友会大学部会会長から祝辞を賜りました。壇上では各学部の総代に学位が授与され、答辞が朗読されました。



大学院の学位授与式は青山学院講堂にて行われ、各研究科の総代と博士に学位が授与され、答辞が朗読されました。
同日ガウチャー記念礼拝堂では午前と午後にそれぞれ塩谷直也大学宗教部長と、西谷幸介大学宗教主任の説教による卒業礼拝も行われました。

2018年度 入学式

2018年4月2日(月)青山学院記念館において、学部・大学院合同の入学式が午前、午後の2回に分けて挙行されました。学生団体による合唱『希望と祈りと』の後、梅津順一院長の式辞、三木義一学長の告辞、後援会会長の守谷晋様からは祝辞を賜りました。式典終了後はアナウンス研究会の司会進行のもと、応援団と吹奏楽バトントワリング部の協力でカレッジソングの歌唱指導も行われ、プログラムは終了しました。



大学学費後期納付のご案内

学部

※大学院の学費納付は大学院要覧参照

【納付期限】2018年10月1日(月)

2017年度以前入学者…4月中旬に発送した学費振込依頼書の後期分をご利用ください。
2018年度入学者…7月19日(木)に後期分の学費振込依頼書を送付予定です(後期分学費未納付者)。

スポーツマネジメントセミナー開催のお知らせ

セミナー「スポーツビジネスの潮流～求められる人材とは～」を、2018年6月13日(水)に開催します。「スポーツビジネス」や「人材育成」をテーマに、原晋陸上競技部(長距離ブロック)監督や、ラグビーワールドカップ2019組織委員会レガシー部部長の本田祐嗣氏等による講演およびパネルディスカッション等が行われます。
ご参加は事前申し込み制で、定員になり次第締め切りとなります。

日時：2018年6月13日(水)13:00～17:00
場所：本多記念国際会議場(青山キャンパス17号館)

詳細は[本学ウェブサイト](#)をご覧ください。

URL <https://www.aoyama.ac.jp/>

問い合わせ先：学生生活部スポーツ支援課
TEL：03-3409-9393

青山学院大学教育振興資金

保証人の皆さまのご支援を教育研究環境の改善につなげます。

日頃より本学の教育研究活動に関してご理解、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
2017年度募集いたしました「青山学院大学教育振興資金」に対して過分なるご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。今号では2017年9月6日以降にご寄付いただきました皆さま方を掲載の対象としております。
2017年度は、前年度に引き続き、教育研究環境の充実に向け、2号館ラーニングcommons設置整備、図書館データベース充実、AED機器更新など、学習環境および生活環境の一層の改善に取り組みました。この場を借りまして御礼申し上げますとともに、ご寄付くださった皆さま方のご芳名を本誌に掲載させていただきます。

ご芳名掲載対象者 292名 (ご芳名掲載者 92名 匿名者 200名)

ご芳名掲載対象期間
2017年9月6日から2018年3月31日までのご寄付者

あ	天野 邦彦 様	か	加 川 正 様	櫻井 由喜子 様	田村 和久 様	ま	町田 裕之 様
	鮎 瀬 典夫 様		金 井 昭 様	佐藤 隆則 様	田村 英樹 様		松 井 俊 様
い	池田 邦久 様		金 井 りか 様	猿渡 良太郎 様	辻 一也 様		松 室 健 様
	池畑 博美 様		金森 伸一 様	澤崎 泰弘 様	辻 武寿 様		松 本 賢芳 様
	石田 孝一 様		川合 信明 様	志賀 永基 様	津田 不二夫 様	み	三木 良太郎 様
	稲岡 秀晃 様		川 野 彰 様	重光 信彦 様	戸坂 伸之 様		水 沼 和人 様
	井上 幸夫 様	き	城戸崎 雅美 様	清水 和平 様	中 島 肇 様		光 井 淳子 様
	岩尾 満蔵 様		木村 勘一 様	清水 健司 様	中村 正治 様		宮澤 宏忠 様
	岩崎 賢治 様		木村 尊 様	菅野 宏二 様	西田 賢一 様	む	武者 哲哉 様
	岩崎 徳之 様	く	久我 洋二 様	杉 山 功 様	二橋 利守 様	も	森 雅人 様
	岩瀬 幸子 様		櫛田 是道 様	鈴木 一郎 様	丹羽 勝弘 様		盛 義弘 様
	岩田 大史 様		黒田 英春 様	鈴木 博之 様	根岸 美幸 様	や	山 田 茂 様
う	上原 重樹 様	こ	小 亀 重喜 様	瀬井 信夫 様	野 口 聡 様	よ	横 山 俊彰 様
	内田 年昭 様		小林 秀信 様	大洞 健史 様	長谷川 俊也 様		依 田 裕 様
	梅本 幸司 様		小林 洋子 様	高野 裕之 様	原 口 敏也 様		米 山 俊英 様
	浦上 博史 様		小林 宏至 様	高橋 慎一 様	土方 圭以子 様		(五十音順)
	榮田 博司 様		米谷 信行 様	高橋 英紀 様	福原 悦子 様		法人寄付
え	大 槻 茂 様	さ	齋 藤 敏哉 様	田 中 茂 様	古山 登隆・真由美 様		株式会社ギミック
お	小澤 源太郎 様		酒部 明正 様	田中 雅行 様	堀 部 泰樹 様		代表取締役
							横 嶋 大 輔 様

※ご芳名掲載の意思表示は「教育振興資金ご寄付のお願い」に同封の振込用紙にて依頼しております。希望されない方、意思表示のない方、また、銀行のATM、インターネットバンキングを利用してご寄付され、意思確認ができない方につきましては、匿名で掲載させていただきます(今回匿名掲載された方で、ご芳名掲載を希望される場合は、庶務部経理課までお知らせください。次回掲載させていただきます)。
問い合わせ先 庶務部経理課 E-mail：agu_supporters@aoyamagakuin.jp

感謝の気持ちを込めて

2017年度にご寄付いただきました保証人の方々にご案内いたします。

5月～7月
6月16日(土)
9月～12月
11月30日(金)

前期公開講座(優先ご案内)
感謝の集い(昼食会：青山キャンパスにて全員ご招待)
後期公開講座(優先ご案内)
クリスマス・ツリー点火祭(自由参加)

※後期に開催する催しについては改めてご案内いたします。



2口以上の方に腕時計を贈呈

ソーシャルメディア(SNS)利用にあたって

インターネット上での利用トラブルが増えています。SNSに不謹慎な画像を載せたことによる炎上、個人が特定されたことによるストーカー行為、パソコンの脆弱性を狙ったフィッシングやオンライン詐欺、出会い系サイトでの援助交際、無許可で撮影した写真をSNSにアップしたことによる人権侵害等々。インターネットを利用する上で常に意識しなければいけないのは、世界中の人が閲覧可能であり、一度流れた情報は制御できないということです。十分注意して、利用してください。

SNSを利用するための5箇条

- 1 SNSにおいても**実社会と同じように社会的なルール**を守らなければならない
- 2 SNSに書き込んだ情報は**瞬時に世界に広まる**ものだとことを認識する
- 3 友人だけではなく家族や学校など**誰に読まれても大丈夫**な内容にする
- 4 芸能人の顔写真やアニメのキャラクターを**無断で使用しない**
- 5 他人を**誹謗中傷**したり**悪口**を言ったり読む人が**不快になる内容**を書かない

「万代基金」を創設しました ～青山学院で学ぶ人たちのために～

青山学院では創立143年を迎えたことを機に、青山学院・新経営宣言を発表し、その取り組みの一つとして「万代基金」を創設しました。その目的は、学生を経済的に支援するための「給付型奨学金」と青山学院創立150周年に向けての指針「AOYAMA VISION」を実現するための「教育研究資金」の充実です。

給付型奨学金は、必要とするすべての学生が受給できることを目指しています。多くの皆さまにご支援をお願いいたします。
2017年度に給付型奨学金としてご寄付いただいた方と、受給した学生の声をご紹介します。(学年は2017年度のもので)

〈寄付者からのメッセージ〉

■ みどりの種奨学金

置かれた環境の中での経験から学んだことで、どのような才能を開花させて、いかに世の中のために貢献できるかが決まるのだと思います。皆さんが大いに学び、美しい花を咲かせ、将来大きな実を結ぶことを期待します。

■ ふきのとう奨学金

苦難に遭っても静かに受け入れて立ち向かい、意志の力をもって歩んで乗り越え、あなたに与えられた道をしっかり歩むことができるように応援しています。

〈受給学生からのメッセージ〉

■ 文学部 英米文学科3年

教員を目指して勉強に励んでいます。授業中でもアルバイト中でもお金のことを考えて暗い気持ちになりましたが、奨学金によって大きな精神的・肉体的負担が和らぐようになりました。

■ 地球社会共生学部 地球社会共生学科1年

人生の先輩方よりご支援いただき、大変幸せに感じるとともに、深く感謝申し上げます。青山学院大学で学ぶ機会を得られた今、貪欲に学業を続け、社会に多くを還元できる人間となるように、自分を磨いていきたいと思っています。

資料請求・
問い合わせ先

青山学院 学院連携本部
TEL : 0120-900-420(フリーアクセス) FAX : 03-3409-3890
E-mail : bokin@aoyamagakuin.jp

≫インターネットからのご寄付も可能です。

青山学院 募金

検索



青山学院大学公式ウェブサイトを更新しました！

2018年3月、青山学院大学公式ウェブサイトを更新しました。
教育・研究をはじめ、学生や教員の活躍など本学の魅力を随時発信していきますので、今後ご注目ください。

URL <https://www.aoyama.ac.jp/>

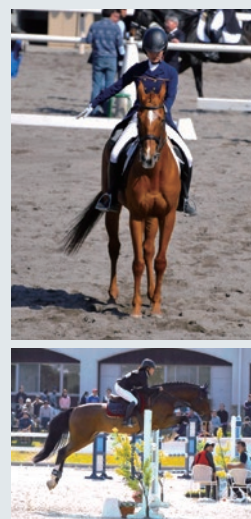


Club & Circle 39 馬術部

馬たちと触れ合いながら、競技実績を重ねています。

馬術部では現在、男子6名、女子7名の計13名で、9頭の馬たちと共に活動しています。練習のメインは、障害物を越える障害飛越競技と、決められた動きを正確に馬に行わせる馬場馬術競技の2つの競技。2017年度は第67回全日本学生賞典障害馬術競技大会で個人2位、第55回関東学生馬術女子競技大会で団体4位、六会ホースショー2018で団体1位、第55回東都学生馬術競技大会新人馬場馬術競技で団体2位などの実績を挙げました。基本的には個人競技ですが、遠方の競技場に馬を運び、試合運営も部員だけで行うことが多く、競技会を通して部員同士の協力はもちろんですが、他校との交流も盛んです。馬は人間よりもとても力が強く、毎日の運動や掃除、給餌の世話にも細心の注意が必要になります。また馬の調子は毎日変化するので、見逃さないよう観察することも大切です。毎朝5時に起きることは慣れるまで大変でしたが、おかげで時間の使い方が効率的になり、勉強もはかどるようになりました。ほとんどの部員が大学から馬術を始め、上級生になる頃には強豪校と肩を並べる試合に出られるほどに上達しています。動物との触れ合いを楽しみたい人にとっても居心地の良い活動場所だと思います。大学で新しいことを始めてみたい人はぜひチャレンジしてみてください！

(主将：理工学部 電気電子工学科4年 一箭 大貴 記)



AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU NEWS」を発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。

- バックナンバーは、本ウェブサイトでご覧いただけます。
- 確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**



●2018年5月31日発行●

発行元：青山学院大学 政策・企画部 大学広報課 TEL : 03-3409-8159 〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます。©2018青山学院大学
本誌に登場する人物の在籍年次や役職、所属や身分などは、原則取材時のものです。